

名勝おくのほそ道の風景地  
「壺碑(つぼの石ぶみ)・興井・末の松山」  
保存活用計画

平成28年3月  
多賀城市教育委員会

---

---

## 序

多賀城市内には、古代から和歌に詠まれた歌枕ゆかりの地が数多く知られております。これらの地は、現代に至るまで地元の方々を中心として保護顕彰活動が続けられたことにより、今もなお良好な景観が保たれております。

1689年、後に「俳聖」と称された松尾芭蕉は、弟子の曾良と連れ立って、遠く陸奥から北陸の歌枕ゆかりの地を訪ねる旅に出ました。その旅路は、道中のさまざまな情景を俳句で彩った紀行文『おくのほそ道』として発表されました。仙台から多賀城へと続く道を表現した「おくの細道」から名付けられたこの作品は、日本における紀行文学の最高傑作と評価されるにとどまらず、今や世界からも注目を集めるに至っております。このような高名な文学作品の中に、市内の歌枕ゆかりの地が数多く取り上げられていることは、誠に誇りに思う限りです。

名勝おくのほそ道の風景地は、松尾芭蕉が『おくのほそ道』に記し、今もなお当時を偲ぶことができる観賞上の価値が高い場所を指定したものです。平成26年10月6日、本市に所在する「壺碑（つぼの石ぶみ）」「興井」「末の松山」の3箇所が名勝に指定されたことを契機に、保存活用計画を策定する運びとなりました。先人達から続く保護顕彰活動の新たな指針として、古代からの由緒ある3箇所指定地を未来へと確実に継承し、その文学や歴史的な魅力を地域資源として、教育を始め観光やまちづくりなどに広く活用することを目的としたものであります。

最後になりましたが、本計画の策定にあたりましては、名勝おくのほそ道の風景地保存活用計画策定委員会議の委員各位、文化庁及び宮城県教育委員会から御指導・御助言を頂きました。また、地域の皆様からも貴重な御意見を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

平成28年3月

多賀城市教育委員会  
教育長 菊地 昭吾

---

---

---

---

## 例 言

- 1 本書は、名勝おくのほそ道の風景地「壺碑（つぼの石ぶみ）・興井・末の松山」の保存活用に関する事項を定めた計画書である。
  - 2 本保存活用計画の策定は、国庫補助事業として平成27年度の1ヵ年で実施した。
  - 3 本書は、名勝おくのほそ道の風景地「壺碑（つぼの石ぶみ）・興井・末の松山」保存活用計画策定委員会議での指導助言、及び文化庁・宮城県教育庁文化財保護課との協議を経て、多賀城市教育委員会が策定した。
  - 4 計画策定に係る事務は、多賀城市教育委員会事務局文化財課が担当した。
  - 5 本書は、第1章「計画策定の目的と意義」、第2章「名勝指定の経緯」、第3章「多賀城市の歴史と指定地の文学史的背景」、第4章「本質的価値と構成要素」、第5章「現状と課題」、第6章「基本方針」、第7章「保存のための方策」、第8章「活用のための方策」、第9章「運営のための方策」、附章1「計画策定の体制と経過」、附章2「名勝おくのほそ道の風景地における包括的保存活用の基本指針（案）」、附章3「関係法令等資料」で構成される。
  - 6 本書では、杉浦正一郎校注 1957 『おくのほそ道 附 曾良随日記』岩波書店、及び頼原退蔵・星形仿訳注 2003 『おくのほそ道 現代語訳／曾良随日記付き』株式会社KADOKAWAを使用・引用した。
  - 7 本書に掲載している写真・図面のうち、下記については所蔵機関からの提供を受けた。  
表紙  
『奥州名所図会』（仙台市博物館所蔵）の画像を改変して作成  
25及び30・36・42ページ下段掲載の「壺碑（つぼの石ぶみ）」「興井」「末の松山」  
『奥州名所図会』（仙台市博物館所蔵）の画像に加筆  
30・36・42ページ上段掲載「壺碑（つぼの石ぶみ）」「興井」「末の松山」  
『陸奥紀行』（東北大学附属図書館所蔵）の画像に加筆  
32・47・61ページ掲載写真  
多賀城碑（宮城県多賀城跡調査研究所提供）  
33ページ掲載写真  
特別史跡多賀城跡附寺跡航空写真（宮城県多賀城跡調査研究所提供）の画像に加筆
  - 8 本計画は平成28年4月1日から運用する。
- 
-

---

---

# 目次

<b>第1章</b>	<b>計画策定の目的と意義</b>	
1	目的	1
2	関連計画	1
3	意義	4
<b>第2章</b>	<b>名勝指定の経緯</b>	
1	名勝指定以前の経緯	5
2	名勝指定に至る経緯	7
<b>第3章</b>	<b>多賀城市の歴史と指定地の文学史的背景</b>	
1	多賀城市の歴史	16
2	文学史的背景－歌枕	17
3	『おくのほそ道』と近世以降の歌枕保護顕彰活動	19
<b>第4章</b>	<b>本質的価値と構成要素</b>	
1	本質的価値と構成要素の概観	26
2	壺碑（つぼの石ぶみ）	27
3	興井	34
4	末の松山	40
<b>第5章</b>	<b>現状と課題</b>	
1	壺碑（つぼの石ぶみ）	46
2	興井	51
3	末の松山	55
<b>第6章</b>	<b>基本方針</b>	
1	保存に関する基本方針	59
2	活用に関する基本方針	59
3	運営に関する基本方針	59
<b>第7章</b>	<b>保存のための方策</b>	
1	共通方策と指定地ごとの方策	60
2	構成要素ごとの方策	61
3	現状変更等の取扱い	66
4	維持管理	71
5	保存のための整備	73

---

---

**第8章 活用のための方策**

- 1 共通方策と指定地ごとの方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
- 2 構成要素ごとの方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
- 3 調査・研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
- 4 広報・公開・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
- 5 活用のための整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86

**第9章 運営のための方策**

- 1 共通する方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
- 2 壺碑（つぼの石ぶみ）の運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
- 3 興井・末の松山の運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92

**附章1 計画策定の体制と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94**

**附章2 名勝おくのほそ道の風景地における包括的保存活用の基本指針（案）・・ 99**

**附章3 関係法令等資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 101**

---

---